

【主題名】 自他の生命について考える 内容項目 「D-(19) 生命の尊さ」

【教材名】 決断！骨髄バンク移植第一号（東京書籍 新しい道徳1）

<あらすじ> 日本初の骨髄移植によって白血病患者の命を救う話。血液の適合を告げられた一人のドナー登録者が提供を決断するまでの葛藤を描く。全国集会で患者とドナーは出会い、固い握手を交わす。

【ねらい】

内容項目の理解

生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重するという道徳的価値について指導する。

児童生徒の実態把握

自他の生命を大切にしなければならないことは理解しているが、具体的な場面で、どのように命を大切にしていこうかという意欲は高くない。

本時のねらいを設定する

判断力 心情 実践意欲 態度

生命の有限性、唯一性について理解を深め、自他の生命を尊重しようとする道徳的実践意欲と態度を育てる。

【学習指導過程】

段階	主な学習活動 ○主な発問 (◎中心発問)	考え議論する道徳ポイント集
導入	1 本時の教材に興味・関心を持つ。 ・骨髄移植や骨髄バンクについてクイズ形式で聞く。 2 課題をつかむ。 生命を大切にするには	導入の工夫
展開	3 資料の範読を聞き、内容をつかむ。 ○ 田中さんはなぜ、「提供します」とすぐ答えたのだろうか？ ○ 「断るなら今だ」と思った田中さんは何を考えていたのだろうか？ 4 田中さんの葛藤を理解する。 ・「提供する田中さん」と「提供しない田中さん」での役割演技を通して考える。 5 資料後半を聞き、内容をつかむ。 ◎ もし、あなたが橋本（田中）さんなら、田中（橋本）さんに、どのような手紙を書きますか。	自分との関わり 体験的な学習
終末	6 授業を振り返り、自分との関わりで考える。 ○ 自他の生命を大切にするために、これからどのようなことに心掛けて生活していきたいですか。 ・最後の発問前に、「命の感謝状（手紙）」または、「命のリレーの物語（映像）」を紹介する。	終末の工夫

【板書計画】

◎ 田中さん（橋本さん）に手紙を書きましょう。

自他の生命を尊重するためには？

- ・他の人のことも気に掛ける。
- ・自分の命をまず大切に。
- ・周りの人に感謝する。
- ・勇気を持って行動する。
- ・様々な人がいることを知る。

田中さんの心

提供する

- ・人の命が救える
- ・息子に宣言した
- ・自分に誠実に生きたい

断るなら今だ

- ・太い針を刺す恐怖
- ・仕事を休まなければならぬ
- ・母も反対していた

骨髄バンクとは？

白血病の治療のため設立

ドナーから患者へ骨髄液を移植

約二万三千件実施

バンク登録者は五十二万人

移植待ち患者数約二千人

決断！骨髄バンク移植第一号

生命を大切にするには

第〇回道徳

【評価】

自他の生命の尊重について、体験的な学習を通して、自分との関わりで考えようとしていたか。